

# 蝦夷志料

十八

和書門	二九四八	函	架	冊
	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
	類	號	架	冊

庫文閣内	和	103
二九四八	二二〇	二二〇
函	架	冊
二二〇	二二〇	二二〇
架	冊	冊
十八	十八	十八
番號	和	29408
冊數	210	(19)
函號	178	119

211041號



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

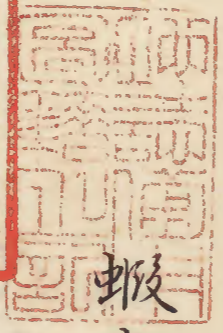


© Kodak, 2007 TMI: Kodak





同  
109



蝦夷志料卷第十八

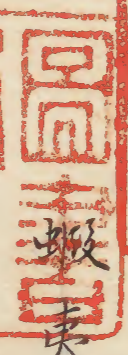
松前部

土産第廿八之一

草



1107



蝦夷紀事

先年 享保二十年 乙卯

朝鮮人參乃種津輕少松前一

林領ありて植付しるに依り 作付津輕

山多外の濱乃内平館と三馬屋と二ヶ所乃山

上北向を所植置しり土地を合せり故り



增長と云ふ中今も植る時の節に於て松前  
ハヤシタナリ土地今と見え其實と云ふ二  
本植る小翌年以五本出来今ハ七本あり根も  
節根よりハあり以堅根なり本草の圖經ハ合きて  
みよ小枝乃別と少異なる事あり唐と朝鮮と  
能違ひの故也堅根と内地の節根とハ氣味  
と格別あり魚津経と松前と七里の海とへ  
て乃汁よりハこれハ風土の差別あり

今按る蝦夷松前鳥此書と同くこれハ

### 松前志卷八

#### 人蔘

松前竹節人蔘あり未視有漢種或云一種鳥  
人蔘ト云モノアリ是亦未詳其真偽享保二  
十年江府ヨリ朝鮮人蔘ノ苗ヲ給リケレト  
其根絶タリ北海隨筆一名松前  
鳥ト號スニ松前千軒嶽  
漢種ノ人蔘アリト云ヘリ千軒嶽トハ方俗ノ訛  
リ傳ヘタルナリ昔時ウ  
コンタケト云ヘリ鬱金嶽ノ麓ヲ千軒  
ト云詳ナルコトハ地理部ニ見エタリ如何アラ  
ンヤ又西部ヒラタナイト云處ニ人蔘ニタ



カハヌ草アリトモ傳ヘ云リ是亦未詳然否

北海隨筆書中誤謬甚多シ下畧

蝦夷草木志料

サンカイ 涉間知内 今按サンカイ次條ノサンカイとは何れなるか未詳

にせ 竹節人參 俗名 竹節參 本草原始 ハク

カノニケクサツマノ井 ツマノ井 ツマノ井

はまのり此參 此參 此參 竹節參

此我國よ寛永 寛永 寛永 廣東潮州の

向乃國漂到 此産 見 根 鬚 人何欽吉日

世乃子れ比較 此 此 此

涼く夷中此 此 此 此

北陸寒威此 此 此 此

海外も參此 此 此 此

と詳余 著 此 此 此

志 松前記云 憲廟の御時朝鮮種二株と賜 此 此 此

て七株となり其後絶と 此 此 此 此

東夷物産誌

サンカイ 竹節人參



エトモオシヤマンへエテツケレノホリ  
ライハノホリ大沼嶺福島等ノ山中ニ生  
ス此竹節人參ナリ

松前志卷八

半夏

一名守田和名ホソクニ和俗或云烏拘木藩  
舊ヨリ産ス

蝦夷草木志料

へブス 木古内<sup>ナ</sup>ま<sup>イ</sup>仙臺<sup>セン</sup>は<sup>い</sup>く<sup>も</sup>の<sup>く</sup>カ<sup>タ</sup>ボ<sup>フ</sup>式<sup>シキ</sup>延喜  
スブスとは鳥頭の夷名ナリ

蝦夷物産誌上卷

附子 夷名セタシユルソ附子シヨシノニユルソ鳥頭

時珍曰初種為鳥頭象鳥之頭也而生者為

附子如子附母也鳥頭如芋魁附子如芋子

蓋一物也

松前方言にへブスと云

松前志卷八

イケマ

此物本名未詳蔓艸之根也夷地深山ヨリ出







東夷物産誌

へ又 牛皮消

此救荒本草ノ牛皮消ト云モノナリ松前ノ人イケマト云此物奥州及下野山中往々アリ形仿佛トシテ蘿摩ノ如シ下畧

松前志卷八

葛根

一名雞齊和名クヌ此物キハメテ山野ノ崖壁ニ生ス莖ハ即海人乾鯧魚ヲ束ヌル要具

タリ方俗コレヲフキト云往古ハ此物ノ皮ヲ布トシ或喪服トシ藤衣ト名ツケシヨシ其名ノ残りタルニヤサレハ古人ノカキリアレハケフヌキスツルフキコロモハテナキモノハナニタナリケリト詠セルモ此故也貝原翁ノ説ニ河州ノ葛井寺ヲフキ井寺ト云ヨシ是又フキト云ヘルコト同シ此物生根發散ノ劑ニシテ金瘡ヲ療シ上氣嘔逆ヲ治シ血利ヲ止メ小腸ヲ通シ粉ハ以テ渴



ヲ止メ大小便ヲ利シ或ハ貧民ノ飢ヲ助ケ  
大益必用ノモノナリ方俗粉ヲ名ツケテグ  
ヅト云葛花葛葉葛蔓俱ニ功能アリ馬ノ飼  
養ニハ此葉ニマサル物ナシ或ハ蔓ヲ山家  
隱者ノ軒ニマトハセタルハ古雅ナルコト  
云ハンカタナシ真ニ世民ヲ救フ良艸ト云  
ヘシ松岡曰漢土植家園而用之名之家葛  
和國皆野生方書呼軋葛者葛根俗醫誤以軋  
葛為葛粉或取葛莖為軋葛俱誤也ト此說可

從予

蝦夷物産誌上卷

葛

夷名ヲイカラ

釋名 雞齊 鹿藿 黄斤

時珍云葛從曷諧聲也鹿食九草此其一種  
故曰鹿藿

松前方言ヨクハクヅカクソクズノ誤轉也  
あるハ此草山林中多ク

按ニ此草蔓ヨク布と織ハ根ヨクハ粉と



作子匠（ま）り夫人（に）其製（を）し（ら）む

松前志卷八

牽牛子

花實共ニ他國ノモノニ異ナラス一名黒丑  
或名草金鈴或云牽牛子ヲ懷中ニスレハ虱  
ヲ生セスト是方俗ノ説ナリ

卷柏

國俗イハヒバト云癥瘕月閉ヲ治ス一名萬  
歳他産ノモノニ不異

天南星

此物福山近邊ニアリ一名牛莖又百倍ト云  
雌雄ノ二種アリ雄大莖紫根長シテ柔潤有  
功通利ノ劑ナリ

天南星

時珍云小者為由跋即一種也益軒云山中天  
南星ニ似テ小ナルモノアリ是由跋ナラン  
カ天南星一名虎掌方俗ヘビガイハ千ト云  
或云此物藟藟ニ制スヘシト如何アラシヤ



方俗コレヲカブラブスト云モノアリト云

一リ未其實名ヲシラス

蝦夷物産誌上卷

天南星 夷名ウラ

釋名 虎膏 鬼菟蒬

天南星即虎掌也小者名由跋 本草綱目

時珍曰虎掌因葉形似之非根也南星因根

圓白形如老人星狀故名南星即虎掌也 同上

天南星處々平澤有之三月生苗似荷梗其

莖高一尺以來葉如菟蒬兩枝相抱五月開

花似蛇頭黃色七月結子作穗似石榴子紅

色二月八月采根似芋而圓扁與菟蒬相類

人多誤采了不可辨但菟蒬莖斑花紫南星

根小柔膩肌細炮之易裂為可辨焉 同上

松前方言ハノタイハ千トノ

和名於保々曾美 和漢三才圖繪

按小松前方言ハヒノタイハ千トノハ大

由跋トノ事ハハハ大の草れ莖斑紋蛇色ト同











按る此草春早く芽と生と土人其莖とや  
り食ふその味酸し故に大酸やと意たる  
よや又これと採る塩し漬し其汁を用ふ  
に紅しし實し梅酸しとほされり俗に此と  
和大黄といふダイスの名とたり味乃酸きと  
出たるたし又案に酸摸の訓とダイク  
サヤもつとされし此と畧しとダイサヤ  
といふことサとスと通ふ故ダイスといひし  
の

松前志卷八

麥門冬

一名禹韭或云不死草此物庭前三草ノ一種

藿香



云松前此物ヲ生スト未詳疑是藿菜子  
青葉ト稱スルモノ固ヨリ漢種ナリ

車前子

方俗マルゴバト云他國ノ人ヲホバコト云



大小二種アリ爾雅ヲ按ルニ菜菔ハ馬舄馮  
舄ハ車前トアリ注ニ好生道邊即此物ナリ

木通

方俗アケビト云木通ハ即蔓也葉莖ヲ通草

ト號ス俱ニ通利ノ劑是益軒翁ノ說也然レ

トモ木通即通草ノ稱アリ

紅花

或云紅藍花和名ベニハナ他國ノ産ニ異ナ

ラス出于花草部

東遊記附録

紅花藍花ノ事ナリ紅花ハ寒國ニ應以テ其花  
沈ハ沈リたるハ冨上山形ナリト同様ニ生ズル藍  
花ハ沈リテ見た者何トモ出来ルレト仕上  
事不案内ナリト云ハカクナリト云其年上方  
邊の廻國者来リ木村何某乃家ニ逗留  
アツサフ邊ニ徘徊シ土地の様子トモて松前  
江差ハ藍ト云ルニ其地面ナリ我々ハ藍の出ル土  
地の者ナリハ其事ナリト云ハハ廻國ノ願ヒシ



は子供と連來つゝ藍と作られたるものなりと  
ついでに木村氏也の物語なり  
松前志卷八

蒲公英

方俗モ亦タンポ、ト云黄白ノ二品アリ園  
中自然生アリ或人此物他國ノ産ト小異  
アリト未考然否

蒿陸

一名葦柳或云白昌他國人山ゴホウト云方

俗トウゴボウト云二種アリ俱ニ藥品トス  
一レ其色ニカ、ハルヘカラス然レトモ一  
説ニ花赤者毒アリト云本藩夏五月開花水  
腫ノ良劑ナリ

葎薺

方俗其根ヲトコロト云堀元亨コレヲ和國  
ノサンキライト云夷地真ノ土伏苓アリト  
云未詳其真偽奥州ニテ葎薺ヲオニトコロ  
ト云和名鈔ニ此物見エス



延胡索

即玄胡索此物此土ニアリト云是亦未詳  
蝦夷草木志料

ケコモ 知内 トマ ヒラ 延胡索 本草 綱目 ヤシ カタシ

和名以ノ其の葉牡丹ノ似ルものあり竹葉  
に似ルものあり有夷人其根と瀹き日に軋

て食料ノ備ふべき味平淡今舶来の物  
似ト蓋し藥ノ堪ハ

東夷物産誌

トマ 延胡索

即延胡索ナリ。トカ午ニテハ夷人取テ瀹シ

乾食料トス其外處々山中ニ産ス皆牡丹葉

ノ物ナリ福嶋嶺ニ産スル物惟竹葉延胡索

ニ類ス南部沼宮内驛之邊山村ニテモ粥ニ

煮テ食スル所ナリ此又竹葉ニ類スルモノ

ナリ何レモ味甚苦アラサレハ藥用トナシ

カタシ

松前志卷八



白芷

福山近邊此物ヲ生ス一名白芷又澤芥或云  
アマニウ此物ナリトノ説アリニウ雜艸部  
ニ著タリ

黄精

一名救窮草貝原氏云黄精莖青ク萎蕤莖紫  
也ト世ニアマトコロト云即萎蕤ナリ又黄  
精ヲナルコユリト云ハ奥州ノ方言也倭名  
鈔ニオホエミト訓シ又ヤマエミトモ云是

即偏精ナラン

東夷物産誌

エトラツキ

又エト午松前アマトコロト云即黄精ナ  
リ邊村山中ニ生スルモノ殊ニ丸大ナリ  
莖ノ長六七尺葉ノ長八九寸根モ又甚大  
也又小沼ノ嶺ニ産スルハ形小ニシテ葉  
短濶ナリ萎蕤ノ類モ又エトラツキト云  
也



松前志卷八

升麻

一名周麻醫書ニ蜀川者良トス故ニ川升麻ノ稱アリ武備志弩箭藥方ノ一味ナリ其大蝦夷草木志料

ム子ハルイヨ此青升麻ノ一種ナリコシブムイノ種モも升麻ノ類ナリ一名シユトコカ一名ヲラツモヤンへにモ此種アリ炭燒澤赤升麻アリ吉岡嶺ノ三葉升麻アリ

松前志卷八

鬼臼

覃部龍ノ口ノ邊ニ此物多シ一名天臼或云八角盤柏葉ニ相似タリ高コト凡三尺許

蝦夷草木志料

ライタホロタイコクサ松前大根草 龍牙草 閩書

南産 夷人此葉をとりて金瘡に傳ふと云松前の俗ハ其根をりらるゝ腹痛を治すと云

東夷物産誌



ライタ 龍牙

所々原野ニ産ス此龍牙タイコンサウナリ松前ノ俗々  
ツコヒクサト云樵夫深ク山ニ入り腹痛  
ニアハ此根ヲ嚙テ即治スト云

蝦夷草木志料

イ千ヤリキナ エトコジヤ一名ニヤク前松夷

人食料ニ以トシ往々松前ノ臣加藤肩吾  
亡友吉資坦ニ贈リ書シ云アマニウマニ  
ヤクヤクノ草アリニウハ土俗生食ノことト

ふニヤクと乾テ料理の塩入るとふ魯  
西亜乃人此草と采テ草麴とナリ酒と醞と  
ふその著名はウイノツタハトふ是酒草  
ヤクニ義ナリと譯士とツ魚ノ状ハ獨活切とい  
土當歸ナリとの倫ニ似たり花ハ蛇抹ニ似たり  
と云千エツホウニありハ藁木の如くし  
めり莖硬く微香あり食すに堪へず

東夷物産誌

イ千ヤリキナ



松前ニハコシヤクト云春末苗ヲ布ク状

蛇床ニ似テ甚肥大微キ香氣有リ

蝦夷草木志料

ユツタツタラ一名ヲロムクツタラアツマへビアサ

松前返魂草一名ヤマヨモキ或ハ此と劉寄奴

とナクハハツク

タツチフンカラアツベツノコグワ松後猴草

草本

木

松前志卷七

マタ、ヒ

藤天蓼ナリ稻若水ハ水天蓼ヲマタ、ヒトス

中畧秋實ヲ結フ黄ニシテ棗ノ如シ熟スレハ

紅ナリ方俗コレヲ食フ味甘辛シ葉ノ主治

癥結積聚風勞虚冷細切ノ釀ス飲ニ右本艸ノ説ナ

リ予藥品ノ部ニハ此ヲ出サス蓬萊金連枝

即是也委ハ草木部ノあり

同書卷八



蔓椒

一名猪椒和俗犬山椒ト云ヘリ

香附子

此物西部キヨベニアリト云未詳其真偽上

代ハ此物藥品ニ入サルヨシ貝原益軒翁云

ヘリ

山椒

他産ニコトナラス

辛夷

和名コブシト云方俗ヒキサクヲト云モノ

是ナリ方俗夷人共ニ諸病ニ用ユ載テ詳テ

樹木部和名抄蕪夷ヲヒキサクヲト訓ス

東夷物産誌

ウクシユニ 辛夷仁

此辛夷仁ナリ奥州及松前ハヒキ櫻ト云

夷人皮ヲ煎服シテ寒邪ヲ拂ヒ頭痛ヲ治

ス又骨痛モ治スト云リ

松前志卷八



厚朴

此倭ノ朴樹藥品ニ入ヘカラス松岡説ニ和漢ノ産俱ニ通用スヘシト我藩ニ種アリ一名烈木或云赤朴

原本朴字ナリ今本草和名小摺ニ補ふ

辣茄

方言他國ノ稱ト異ナラス或ハコレヲナンバト云是亦即方言也他國ノ産ニクラブレハ氣味甚猛烈也夷人コレヲ射網ノ加味トスト然レトモ未詳其實否

薰陸

山中ヨリ出奥州南部ノ産ト同種類乎是亦未試真偽

蝦夷草木志料

ツキサニ一名ニ一カツフウシハ千、レタモ松此

本草ニ載ル榆ノ一種ナリ其葉肥大ナリ夷人其皮ヲ剥水ニセシメ麻皮ノ如ク紡績シ織ル布ト造リ此夷中ニ常服トスルト云其朽ル小枝ハ蓄火ノ用ヤナリト云



火繩のこぼし鑽鑿の火もきき是よりと  
 云其法ハ此大枝と刻り孔とふし細沙と  
 盛小枝と頻りききまおのほし火を  
 發すと云周礼ハ司燿氏四時鑽鑿し新火  
 とし飲食の用也と榆と百木に先ん  
 りて故に春これとみりて出れ  
 夷人といふと其人智能會もさるかの如し  
 此木耳とツキサカルと云味美なり即榆  
 肉藜杖今清高つれよ携到る

シケレペニロシコロ松前キハ夕  
字鏡。按ぬ  
 黄層の義 黄蘗

草本 夷人皮と剥りて屋を覆ふと云  
 松前志卷八

合歡皮

和名子フノキ皮ト云此樹素ヨリ他國ノ産  
 ト不異古人合歡蠲忿ト云ハ良木也詳十  
 ルコトハ見于樹木部

地骨皮

即杓杞根皮



五加皮

和名ウコギ他産ト同シ和名鈔五加ハコギニ作ル  
載テ又見于樹木部

桑根白皮

桑樹載在別卷

合歡木霜

合歡ハ見于上霜ハ即黒ヤキ殺蟲

菓實

松前志卷八

覆盆子

一名烏蘆子和俗或ハ西國草ト云是即今云  
イナゴ也

蓮實

他國ノ産異ナラス尤石蓮子ニ非ス混スル  
コトアリ

麻仁

一名大麻即アサノミ也



鶴虱

コレ即天名精ノ實ナリ

嬰粟散

他國ノ産ニコトナラス

菟絲子

一名菟縷根ナシカツラノ實ナリ他國ノ産

ニコトナラス

瓜萋

即果羸實ノ仁ナリ又枯樓又黃瓜蓋シ瓜萋

根ハ即花粉ナリ

胡桃子

他産ト不異出樹木部

皂角子

見干上是即其實也皂角刺ハ其刺也

桃仁

桃花ハ本藩ノモノ其功少シト云ヘリ是北

地風雨多ク其氣香ヲ失フ故ナルヘシ

槐角子



和名エンジュ山中<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>槐花槐枝槐膠俱ニ  
藥品詳<sup>シ</sup>于<sup>テ</sup>樹木部

椽實

即ト千ノ<sup>ノ</sup>見<sup>ル</sup>于<sup>テ</sup>樹木部

東遊記附録

菓<sup>ノ</sup>柿ハ<sup>ナ</sup>梨栗李<sup>ノ</sup>ア<sup>リ</sup>桃梅<sup>モ</sup>ア<sup>リ</sup>多<sup>ク</sup>

下畧

蒲萄と求<sup>ム</sup>ハ。カマエト<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>本<sup>ニ</sup>フトウ

と白蒲萄と<sup>シ</sup>城下<sup>ニ</sup>植<sup>ル</sup>り<sup>ノ</sup>風

味<sup>ト</sup>姜<sup>ト</sup>じ<sup>マ</sup>菓子<sup>ニ</sup>下畧

木耳

松前志卷八

マイタケ

香味<sup>シイタケ</sup>香<sup>ニ</sup>垂<sup>ケ</sup>リ方俗舞<sup>草</sup>ノ字ヲ用<sup>フ</sup>此字

祝儀ヲ帶<sup>タ</sup>レハ用<sup>ル</sup>モ亦佳<sup>ナ</sup>リ此物秋ハ

九月コ<sup>ロ</sup>深山<sup>中</sup>ノ櫛<sup>ノ</sup>生<sup>木</sup>ヨリ生<sup>シ</sup>香<sup>草</sup>

ハ春秋共<sup>ニ</sup>山陰<sup>ノ</sup>朽<sup>木</sup>ヨリ生<sup>ス</sup>故<sup>ニ</sup>其形

状<sup>舊</sup>ヨリ異<sup>ナ</sup>リ但<sup>シ</sup>香<sup>草</sup>ハ春<sup>生</sup>スルヲ以<sup>テ</sup>



貴品トス秋生スルモノハ其肉ウスク朽ヤ  
スクシテ香味モ亦大ニ劣レリ病者決シテ  
コレヲ食ヘカラス積聚アル人固ヨリ此物  
ヲ忌ムヘシ宇治物語ニ昔三州ノ深山ヨリ  
出タル蕈ヲ燒食フモノアリ其毒ニ醉テ舞  
タル故ニ舞蕈ト號スト是此物ヲ云乎又石  
垣ナントノ間ニ生スルキノコヲ食テ狂セ  
ルモノアリ是等類ナランモノハカリカタシ  
タモキ

木名右ニ同深山ニ多シ此木蕈ヲ生ス毒ナ  
シ可食

東夷物産誌

ツキサニカルシ

松前人タモキタケト云此榆肉ナリ 中畧

深山茂林中榆樹腐爛スルモノアリハ經  
春夏暖氣ニ遇ヒ濕溽ヲ得テ即蕈ヲ生ス  
形色楮茵ニ似テ叢生肉厚ク滑澤アリ味  
極テ脆美蕈中ノ最上ナリ

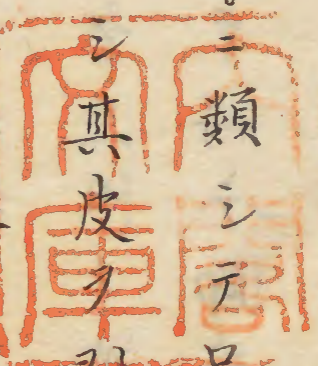


ワカライ



一松前ノ土名秋ノ末ブナノ木ニ生スル茵

ナリ形色ヤ、シメジニ類シテ只其柄カ



ニ其皮ヲ剥キ煎食

ニ付テ皮コハ云又篇菰十ルニ

ヨリヒラタケノ名アリ



三仙臺ムキタケト云又篇菰十ルニ

蝦夷志料卷十八終

木名、女、木、山、木、草、土、毒、十



